上野原ひまわりクラブ会誌

むろがや

第40号
令和5年
3月31日発行

秋の装い～牛倉神社～

新一青老会　長田勇一

巻頭言

上野原ひまわりクラブ会長　杉本　茂

日頃より、会員の皆様には上野原ひまわりクラブへのご参加および各事業における運営など大変ご協力をいただき、ありがとうございます。

早いもので、会長を拝命し二年の任期も無事に過ごさせていただき、会員の皆様のご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

さて、振返ってみれば、新型コロナウイルス感染症によりいろいろと迷わされた任期でしたが、計画も無事に実施することができました。また、グラウンド・ゴルフ大会には、西原地区出身の元旦ビューティ工業株式会社船木社長様よりトロフィーや賞品の寄付をいただけることになり、多くの方が参加される大会を更に盛り上げていただき、大変感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症も少しずつ落ち着きを見せ収束に向かっているのではと思われる中で、徐々に皆様の活動も再起動をしやすくなっているので、頑張って各単位クラブ活動をはじめとする各自の社会参加や介護予防への取組など盛り上げていただきたいと思います。

最後になりましたが、会誌「むろがや第四十号」の発行にあたり、多数の投稿をいただき、ありがとうございます。また編集委員の皆様には大変ありがとうございます。衷心より感謝申し上げます。

終わりになりますが、人生百年、皆で元気に頑張っていきましょう。

巻頭言 …… 上野原ひまわりクラブ　会長　杉本　茂 …… 1
老人憲章・長寿やまなし県民憲章 …… 4
令和四年度上野原ひまわりクラブ各単位クラブ会長・女性委員名簿 …… 5
令和四年度上野原ひまわりクラブ事業報告 …… 6

活動報告

グラウンド・ゴルフと共に＆友に …… 沢松親和会　大神田ふみ子 …… 8
健康体操 …… 大目豊明会　岡部律子 …… 8
グラウンド・ゴルフ …… 甲東きずな会　和智千代子 …… 9
「鉄道の日」（国土交通省大臣表彰を受ける） …… コモアシニアクラブ　金子久雄 …… 9
引継ぎ手のない難しさ …… にしばら錦会　横瀬礼子 …… 10
単位クラブから寄せられた活動の様子 …… 11

随筆

父母を思う …… 本二亀寿の会　守屋多美子 …… 14
山猿 …… 新井陽亀会　奈良俊治 …… 15
「ヤマアラシのジレンマ」 …… 新井陽亀会　水越茂子 …… 15
ロシアのウクライナ侵攻を考える　そして小説の三国志が教えるもの …… 小沢寿会　森川耀雄 …… 16
中村哲医師の歩みに魅せられて …… 沢松親和会　小俣庄三 …… 17
「田舎と都会」 …… 西原なかよし会　長田助成 …… 20
ゴッホのお墓参り …… 四方津シニアクラブ　斉田ミマコ …… 21
上野原賛歌！その2上野原の二重虹に思う！ …… 新三すこやか会　谷口文朗 …… 22
ダブルレインボウ撮影のメモ …… 島田桂生会　行田敏雄 …… 24
笛吹川と笛吹権三郎 …… コモアシニアクラブ　中沢敦 …… 25
一期一会 …… 田町寿クラブ　水越久 …… 27

研究

日本、花の文化小史［四］ …… 塚場長寿会　諸角弘 …… 29
ねがいかき願書（世宝明鑑から） …… 沢松親和会　井上肇 …… 30

創作

願いを込めた千羽鶴……沢松親和会　市川幸子……32
サリー物語　わが闘争……原明朗会　長坂幸夫……34

文芸欄

俳句……コモアシニアクラブ　今友子……36
〃……コモアシニアクラブ　廣井勝美……36
〃……コモアシニアクラブ　金子久雄……36
〃……コモアシニアクラブ　佐藤纓子……36
〃……コモアシニアクラブ　長屋勲……36
〃……コモアシニアクラブ　山本婕子……36
〃……沢松親和会　芹川洋子……37
〃……沢松親和会　小俣キヌ子……37
〃……沢松親和会　尾形富美子……37
〃……沢松親和会　尾形彩乃……37
〃……新井陽亀会　遠藤一子……37
〃……大目豊明会　高野孝子……38
〃……新一青老会　安藤美津江……38
〃……新一青老会　土屋澄子……38
〃……新一青老会　中村悦子……38
川柳……沢松親和会　小俣庄三……38
〃……秋山高齢者クラブ　杉本節子……38
短歌……新一青老会　波多野千江子……39
〃……小澤ことぶき会　森川あきお……39
〃……コモアシニアクラブ　田中醇治……39
詩……本一寿楽会　黒川良人……40
元気やまなし10か条……41

老人憲章

一、すべての老人は、晩年を健康で、平和な生活が保障され道義的、経済的条件が満たされなければならない。

一、すべての老人は、常に修養を怠らず、新時代に適応する老人道を打立てなければならない。

一、すべての老人は、自己の生活設計をたて、その能力に応じた奉仕活動を続けなければならない。

一、すべての老人は、敬愛される寛容な態度をもって、家族隣人との融和を図らなければならない。

一、すべての老人は、相互に慰めあい、励ましあい、楽しい日常生活をおくることを心がけねばならない。

昭和四十四年九月十六日

社団法人　全国老人クラブ連合会制定

ともに生きともに支える

長寿やまなし県民憲章

明るく活力ある「長寿やまなし」を築くため　わたくしたちは

一、心身の健康づくりにつとめます

一、生涯にわたり学習にはげみます

一、あたたかい家庭をつくります

一、持てる力を社会のためにいかします

一、豊かな文化の創造につとめます

一、自然を愛し、やすらぎのあるふるさとをつくります

令和四年度 上野原ひまわりクラブ
各単位クラブ会長・女性委員名簿

単位クラブ会長

NO	クラブ名	氏　　名
1	大目豊明会	岡部　正子
2	甲東きずな会	小澤　宗道
3	コモアシニアクラブ	川口　盛雄
4	沢松親和会	井上　　肇
5	四方津シニアクラブ	岡本　房雄
6	大鶴老人クラブ鶴寿会	小山　岩夫
7	島田桂生会	井本　克二
8	棡原明老会	秦野　勝利
9	西原なかよし会	桑原　俊夫
10	秋山高齢者クラブ	杉本　　茂
11	諏訪悠々会	田村　充代
12	塚場長寿会	古家　　保
13	新一青老会	石塚　英一
14	新二鶴友会	清水　　正
15	新三すこやか会	清水　　祥
16	本一寿楽会	細田　和幸
17	本二亀寿の会	江口　忠勝
18	本三ほがらか会	山﨑　　悠
19	原明朗会	長坂　幸夫
20	新田倉同心会	佐藤　　勇
21	田町寿クラブ	加藤　昭夫
22	小沢寿会	加藤　欽弥
23	にしばら錦会	横瀬　礼子
24	新井陽亀会	尾形伸太郎
25	向風八幡会	石井　光雄
26	山風呂老人会	佐藤　好文

女性委員

NO	クラブ名	氏　　名
1	大目豊明会	安藤　佑子
2	甲東きずな会	和智千代子
3	コモアシニアクラブ	今　　友子
4	沢松親和会	市川　幸子
5	四方津シニアクラブ	岡本　年江
6	島田桂生会	吉村チヨ子
7	棡原明老会	鷹取　賢子
8	西原なかよし会	舩木とめ子
9	秋山高齢者クラブ	原田　英子
11	諏訪悠々会	金子　節子
12	塚場長寿会	渡邉みえ子
13	新一青老会	東山佳津子
14	新二鶴友会	大竹　笑子
15	本一寿楽会	宮下小枝子
16	本二亀寿の会	守屋多美子
17	本三ほがらか会	杉本　文江
18	原明朗会	長坂　裕子
19	田町寿クラブ	鈴木　　香
20	にしばら錦会	横瀬芙佐子
21	新井陽亀会	水越　茂子
22	向風八幡会	矢島　栄枝

令和四年度 上野原ひまわりクラブ事業報告

月	日	事　業　名	会　場	備　考
		令和４年		
5月	10日(火)	会計監査	市総合福祉センターふじみ	会長、監事計3名
	18日(水)	理事会・総会	市文化ホール2階会議室	理事・監事・単位クラブ会長計23名
6月	17日(金)～19日(日)	山梨県シルバー作品展	山梨県立図書館1階	福地秀樹(洋画)優秀賞、大前雄彦(日本画)、臼井勝一(彫刻)、平本静子(工芸)、石井たつ子(工芸)、行田敏雄(写真)
7月	1日(金)	富士の国シニア山梨だより夏号発行		
	20日(水)	第8回上野原ひまわりクラブグラウンド・ゴルフ大会	桂川野球場	15チーム計90名参加 団体賞・優勝:コモアA、個人賞・優勝:若月博(コモアシニアクラブ)
9月	14日(水)	第61回山梨県老人福祉大会・高齢者友愛実践活動研修会	甲府市総合市民会館芸術ホール	県知事表彰:市川武士(島田桂生会)、県老連会長表彰:育成功労表彰・石井光雄(向風八幡会)、会員増加運動活動賞表彰優秀活動賞・甲東きずな会
10月	1日(木)	富士の国シニア山梨だより秋号発行		
	21日(水)	健康づくりリーダー研修会	甲府市総合市民会館3階	女性委員2名参加
11月	17日(木)	女性委員会研修会	市総合福祉センターふじみ2階	女性委員9名参加
	9日(水)	第9回上野原ひまわりクラブグラウンド・ゴルフ大会	桂川野球場	16チーム計102名参加 団体賞・優勝:コモアA、個人賞・優勝:黒柳英一(コモアシニアクラブ)
	10日(木)	県老連グラウンド・ゴルフ大会	小瀬:JITリサイクルインクスタジアム	出場チーム:コモアA、島田桂生会A
12月	15日(木)	むろがや編集委員会	市総合福祉センターふじみ	むろがや編集委員8名出席
		令和５年		
1月	15日(日)	富士の国シニア山梨だより新春号発行		
	18日(水)	上野原ひまわりクラブ表彰審査会	市総合福祉センターふじみ	
	25日(水)	むろがや編集委員会	市総合福祉センターふじみ	むろがや編集委員6名出席
2月	15日(水)～17日(金)	東部地域高齢者作品展	大月市総合福祉センター5階	19作品出品
	25日(土)	市社会福祉大会(上野原ひまわりクラブ会長表彰)	市文化ホール多目的ホール他	表彰者40名・1団体を表彰
	27日(月)	むろがや編集委員会	市総合福祉センターふじみ	むろがや編集委員7名出席
3月	6日(月)	むろがや編集委員会	市総合福祉センターふじみ	むろがや編集委員7名出席
	15日(水)	富士の国シニア山梨だより60周年記念号発行		
	31日(金)	会誌むろがや第40号発行	発行部数1,900冊	

■「健康づくり事業」

グラウンド・ゴルフ教室…全10回実施(6月・7月・9月・10月・11月の水曜日9:00~正午・桂川球場)延べ342名参加

竹細工教室…全5回実施(1月・2月に秋山老人福祉センター)延べ30名参加

■「介護予防事業」

シナプソロジー教室…全14回実施(1月・2月・3月に各単位クラブ毎に各地区施設)予定

「新型コロナウイルス感染症拡大防止等のため多くの事業が中止・不参加等となりました。」

3市村ゲートボール大会、いきいき山梨ねんりんピック2022、上野原ひまわりクラブ役員研修、市町村老連活動発表会及び女性リーダー研修会、スマホ教室

令和4年5月18日
総会

7月20日
第8回グラウンド・ゴルフ大会

9月14日
山梨県老人福祉大会

11月9日
第9回グラウンド・ゴルフ大会

11月10日
富士の国シニア山梨 第15回グラウンド・ゴルフ大会

11月17日
女性委員会研修会

グラウンド・ゴルフ教室

竹細工教室

令和5年2月15日～17日
東部地域高齢者作品展

活動報告

グラウンド・ゴルフと共に&友に

沢松親和会　大神田　ふみ子

グラウンド・ゴルフを始めて、早十年過ぎた。

春は桜のもと、夏は炎天下の空の下、秋は秋で周りの紅葉を愛(め)で、冬は凍てつく中、一年を通しどれほど素晴らしく、貴重な時間を過ごしているか、身にしみて感じています。

ルールが簡易な為か、グラウンド・ゴルフの愛好者が増えているようです。

上野原市でも、社会福祉協議会主催のひまわりクラブ「グラウンド・ゴルフ教室と大会」が催されています。

大会は、春と秋、年二回開催され、前回第九回の大会は秋晴れの中、参加者百人を越え、十六チームで盛大に実施され、楽しく終わることが出来ました。好成績を収めたチームや個人が、県大会でも立派な結果を出してきているようです。

こうした取り組みが出来るのも、日頃ご尽力頂いている、社会福祉協議会のみなさま始め、各チームの方々の縁の下の力があってこそと、心に刻んで居ります。

人との対面や対話、この集まりの中で、意思疎通して、お互いの絆を深めていく。

「入ったー、〝ナイス〟、ワァー凄ーい」

ホールインワンした時の嬉しさ、四打五打打った時の虚しさ、心の声を大空に響かせ、一緒に喜び、一緒に笑い、一緒に嘆いて、交流の輪を広げ、それぞれの会がより一層大きく発展していく事を願っています。

私も、もう八十二歳になりました。まさに、いろんな意味で、人生の集大成に入りました。

多くのグラウンド・ゴルフ仲間とプレー出来た幸せ、語り合えた幸せ、なんと喜ばしい事か、これも、仲間あっての事、沢山の財産を頂いています。

これからも足腰の衰えを感じながらも、仲間の方々に迷惑を掛けないよう、身体の続く限り頑張りたいと思って居ります。

〝グランドを　後にする顔　皆満足げ〟

健康体操

大日豊明会　岡部　律子

朝の仕事が一段落した九時三十分頃になると大野貯水池広場に四、五人集まり澄みきった空気を胸いっぱい吸って、スマホの音に合わせて、ラジオ体操第一をします。気持のよいひとときです。

池には水鳥達が遊んでいます。山は四季折々の景色を私達に楽しませてくれます。

体操が終わると天気のよい時は貯水池堤を歩きます。またある時

は椅子にすわりコロナのこと、新聞記事のこと、また身近にあったこと等色々な話しが飛び交います。そして十時三十分頃になると解散します。

色々忙しく活動していた若い頃のことを思うと今も悩みはそれぞれにあるけれど仲間とのひとときが私の元気の源です。

グラウンド・ゴルフ

甲東きずな会　和智　千代子

運動不足の私が、一番楽しみにしているのは、月に数回行われている「グラウンド・ゴルフ」の練習です。

グラウンド・ゴルフに出会ってからは、夏の暑い日や、冬の寒い季節になっても、いつものメンバーと一緒にするグランドゴルフが、健康維持になっているのかなと思っています。

ホールの近くになっても、一寸の力の加減で、幾打にもなってしまうのも、このスポーツの面白さとなっています。

年に数回行われる市の大会には、遠くに住んでいる知人や、友達と出会うことも出来て、大変懐かしくて、それも大きな喜びでもあります。

これからも、健康維持と共に、緊張感を味わいながら、プレーしていけたらと思っています。

そして、暑い時、また寒い時期、いつも練習場の、芝生の手入れをして下さっている方達には、深く感謝致しています。

私達が、心地よくプレー出来るのは、手入れの行き届いた、こうした場所があってのお陰だと思っています。

安心、安全なプレーの出来ることに、心から感謝しつつ、練習していけたらと思いつつ、健康に、年を重ねられたらいいなと思うばかりです。

「鉄道の日」（国土交通省大臣表彰を受ける）

コモアシニアクラブ　金子　久雄

明治維新が行なわれるも、まだ江戸時代の雰囲気の残る明治五年十月四日。「汽笛一声」、新橋・横浜間の開業から一五九年。「鉄道の日」にあたり、「コモアシニアクラブ街をきれいにする会」が国土交通大臣表彰を受けることになりました。当会は二〇〇〇年九月に結成され、十月から活動を開始しました。当初の目的は四方津駅とその周辺があまりにも汚いのを見かねて清掃をし、花でも少し植えようということでした。駅ホームには花壇を作り駅前広場にはプランターを置いて冬のパンジー、ビオラを、夏にはサルビアを植え付けました。主な活動は掃除・花の手入れ・管理・草刈りなどです。

それから本年に至る二十有余年、会員の引き継ぎを経ながら堂々と続けてきたことが今回の受賞となったと思います。また、この活動を通じて地区の皆さんの公衆モラルが向上しポイ捨てが少なくなってきたことはうれしいことです。

今回の国土交通大臣表彰では、主に鉄道事業社や鉄道業務者百余名で、「鉄道をめぐる一般協力者」として、当会をはじめ全国で北海道、秋田、神奈川、長野、香川、熊本の二名五団体が選ばれました。

式も済み午後四時に四ツ谷駅より帰路についたのですが、途中豊田・八王子間で人身事故とのことでのろのろ運行一時停止をくり返しながら立川止まりとなり、日本語は便利なもので「現場検証が済みまもなく電車がまいります」のアナウンスがあるものの三十分余りも過ぎてやっと来てどうにか高尾までたどり着きました。高尾からの連絡も四十分余りの遅れで四方津駅には六時四十分着でした。「鉄道の日」がこのようになるとは思いもよらぬことで大変疲れた一日でした。

改めて鉄道関係者の苦労を思い知らされた一日でもありました。

引継ぎ手のいない難しさ

にしばら錦会　横瀬礼子

「にしばら錦会」は、この名称となって十三年、解散を決定した。五名の役員は全員女性。会長は、三代の会長が担い、うち六年を私たち女性陣で担ってきた。振り返ると社協での初会の合席にて、「若い人」が役員を引き継ぐのかと近隣の席から声がかかった役員が全員女性で、みんな一九四七年生まれの六十九歳でした。私が会長職を引き受け、偶然にも同い年の会員が揃っていたこともあり、役員をお願いし、後期高齢者を迎える年まで何とか協力してほしいと今日まで引っ張ってきました。西シ原区の総世帯数は約百三十世帯。錦会会員は二〇二二年四月で百四名。高齢者が占める割合は約四十％の地区である。私たちは二〇二三年三月、役員としての任期の満了を迎える。

順風満帆の六年間にはならなかった。後半の三年間はコロナ感染が世界中を襲い、「何もできない・させない・しないように」すると政府→自治体→区から声がかかり、我々の仲間内から発症だけは避けようとみんなピリピリ。

「にしばら錦会」という名称になったのが十三年前のこと。その前身は、「奉仕団」といって戦後から現代を経て、高齢者群団の世話をする方々が多数おり、高齢の住民は積極的に奉仕団に参加し、村内の清掃をはじめ、お祭り、旅行など、楽しく過ごしてきた。時代も変わり、「奉仕団」という名称を変え、「にしばら錦会」としていきいきサロン・老人会を取り込む新たなスタートとなった。

高齢者組織のにしばら錦会は会員年齢を、六十五歳以上とし

た。六十五歳に達すると素直に加入するものだと思ってもらえるようになり、九月の秋祭り・西部地区民運動会・社協の敬老会事業など最高に楽しかったと異口同音に言われるようになった。

そんな時、コロナにより、すべての事業が見送りとなり、役員としての事業計画を果たすことができなくなり、しなくてよくなり…、すべてが後ろ向きへと変わって行った。組織の存在が消えそうになり始めた頃、役員の年齢が七十五歳に到達しはじめた。私はもとより、役員の家族にも医者通いが出始めた。初めて分かった高齢者の特徴は、医者通いが始まることだった。時は待ってはくれず、退任時期が来ていた。手続きは、どうするのか。後継役員への引き継はできるだろうか。ともかく、会員には七十五歳で辞任させて下さいと告げること。切出しはいつがいいのか等、役員間で話し合うこと数回。五月のいきいきサロンの会場で発表した。参加会員は、突然の話にビックリ。その後は、毎月開催のサロンで進捗状況を話す。引き受け手はいないだろうか。区長に区で面倒を見てもらおうか…。十一月のサロン終了後、総会を開催。会員から意見をもらい、十一月十二月開催の役員会に図ったところ、任意団体につき、役員のなり手がいない以上は、解散も止むを得ないと結論をもらった。

大きな組織、高齢者が集う場をどうやって継続して行ったら良いのだろうか。高齢者が高齢者を支える組織は、いつか必ず、今日のようなことが起きることを予想した。私達の代で十三年の歴史を閉じることは断腸の思いだが、一人では運営できないことや、いつか継続しようというリーダーが出るだろうと期待し、サロンの神社清掃だけはやりたい人がやって下さいと結論づけた。

単位クラブから寄せられた活動の様子

甲東きずな会

原明朗会

向風八幡会

田町寿クラブ

椰原明老会と新井陽亀会

西原なかよし会

秋山高齢者クラブ

本二亀寿の会

新一青老会

小沢寿会

随筆

父母を思う

本二亀寿の会　守屋多美子

私の両親は、お互い二十才の時に大恋愛で結婚したそうです。並巾織機を八台入れて、二人で機屋を始めました。

長男が昭和四年に生まれ、次男が昭和六年に生まれ、私、長女が昭和九年に生まれ、母は私を出産してから産後の肥立ちが悪く、私が一才二ケ月の時に亡くなりました。

（享年二十七才）

其れから間もなく、父は母の妹と再婚し、昭和十二年に弟が出来ました。

其の年に支那事変が勃発し、父に召集令状が来まして、九月十二日入隊、十月十八日に七勇士の決死隊に志願して戦死しました。

（享年三十才）

四人の子供と新妻を残し、心中は如何ばかりだったかと思う。その中に、一人だけ生きていた人が居たそうです。

上野原の町で一番最初に戦死した方は、田町の梅原さんという方で、二番目が私の父、守屋重郎です。二人合同の立派な町葬をしていただきました。朝日新聞の記者さんが来て色々、写真も撮って残してくれたお陰で、八十五年経った今でもしっかり残っています。

其れから、どの位経った頃か、無事生還した方が母を訪ねて来たそうです。其の方は、右手の親指を残して、あとの四本の指が全部無かったそうです。どんな話をしたか、母は教えてくれませんでしたが、どんなに負傷しても生きて帰ってくれたらと思ったそうです。

「重郎さんは、いい人だった。夢でも会いたい。」

でも、一度も見なかったと、其の母も九十五才でこの世を去りました。

感謝してもしきれない、育ててくれた事を。

長年の病に伏しし、母は逝く、

ベットの後の畳の青き

一才で母に別れ、三才で父に別れ、両親のぬくもりを何も知らない。

八十九才にして父母を思う。

合掌

山猿

新井陽亀会　奈良俊治

妻が介護老人施設に入所していた時の思い出話です。

その施設は緑に包まれた山の中腹にありました。部屋は大きく、眼下に点在する民家が美しく輝いていた静かな場所でした。

これは、家族で妻の見舞いに行った帰り道の出来事でした。

自家用車で山道を下っていた時です。前方に山猿が八匹ほど歩いているではないですか。

この町なかに山猿が住んでいるとは、誠に驚きの限りでした。

その中には、母猿に抱きついた子猿の姿もあり、人間に慣れていたのか、私たちの車を眺めながら静かに山中に消えて行きました。

その仲睦まじい姿に感動し、愛情を感じました。

猿は動作や体つきが人間に似ており、知能も高い動物だそうで、大変親しみを持てました。

あれから何年たったでしょう。

猿たちは今どうしているでしょうか。

若い時から山菜取りが好きな私でした。

山の猿たちにも数多く接してきました。

「あの偶然の出会い」今でも心に残って離れることはありません。

「ヤマアラシのジレンマ」

新井陽亀会　水越茂子

昭和二十五年から三十五年頃、一家に一台ラジオのあった時代、我が家にも一台、小さなラジオが六畳間の箪笥の上にあった。夕方の六時半になると「新諸国物語」が始まる。

「紅孔雀」「笛吹童子」「七つの誓い」「オテナの塔」など、あらすじは何一つ覚えてはいないが主題歌の幾つかは記憶に残っている。

子供の頃から落語、漫才、講談など演芸番組が好きで、よく聞いていた。

♪赤い灯、青い灯、道頓堀の～で始まる道頓堀行進曲がラジオから流れてくるとわくわくした。大人になってだいぶ経ってから朗読に関心を持つようになったのも中学生の頃ラジオで聞いた徳川夢声の語りと声に引き付けられたからかもしれない。

朗読とは詩や文章などを声に出して読みあげること。辞典にはそうあるが、いざ人に伝えるとなると難しい。特に間が大事だと思う。落語も漫才のボケとツッコミも絶妙な間が笑いを誘い、聞く人を引き付け楽しませるのだと思う。

近頃、「ソーシャルディスタンス」という言葉を耳にするようになって、人と人との距離の取りかたに悩むことが増えた。知人に思いがけず遭遇し嬉しさの余り握手したり、または友だちと肩を寄せ顔を近づけて会話することもためらってしまう。

こんな日常がいつまで続くのかと思った時、以前読んだ本の「ヤマアラシのジレンマ」という話を思い出した。

「ある冬の寒い日、ヤマアラシは暖を求めて集まりました。ヤマアラシは背中に長く鋭い針状の毛を持っていますからお互いの針が刺さるので、慌てて離れました。でもやっぱり寒いから近づくと、また針が刺さります。

そんなことを繰り返しているうちに、丁度良い距離を見つけることができました」

人との適切な距離を説明した例話（たとえ）だが、実際には針を刺すようなことはせず、暖を取るときは針のない頭の部分を寄せ合うそうだ。

ヤマアラシの針よりは目に見えないコロナウィルスが怖いが、脅えるばかりでなく「ウイズコロナ」のこれからは適切な距離を保ちながらも、心を寄せ合う工夫と努力が今以上に必要になると思う。

ロシアのウクライナ侵攻を考える
そして小説の三国志が教えるもの

小沢寿会　森川耀雄

二〇二二年突然ロシアがウクライナ東部へ侵攻し戦争が始まりました。明治の時代、日本は乃木大将が大軍を率いて旅順の二〇三高地のロシア軍を撃破し、日本海では東郷平八郎司令官がバルチック艦隊を破り大勝しました。日本軍も二〇三高地では一万六千人の兵士を失ったといわれます。それまでロシアは永年、帝政ロシアは栄華を誇ってきましたが、その後崩壊し、民衆の中から社会主義運動が台頭し、マルクス・レーニン思想が生れました。ロシアもこれを機に独裁政治が始まりソビエト連邦を形成して行きました。ちなみに私が旅順を訪問した時、その昔、乃木大将とロシア将軍ステッセルが会見した水師営や、ロ軍の爆破されたトーチカが残存していました。日本も明治以降、封建制度から徐々に右傾化し軍国主義へと移行して行きます。またロシアも民主主義国家との対立が高まって行き、ロシアから離れて行くウクライナへ進出して行きます。元々、社会主義思想（別名共産主義）は、恵まれない民衆の中から発したものですが、日本が大東亜戦争で無条件降伏してから数日後に北方領土に侵入したり、降伏した日本兵をシベリアへ抑留し過酷な労働を強いて来ています。この春ウクライナへも同様な手口で侵略しています。共産主義者の社会は、そういった社会なのでしょうか？　昭和までの戦争は銃や大砲の肉弾行が殆んどでしたが、今やミサイルとか核の戦いに移っています。それだけに大変恐い時代ですね。日本も明治時代以降、封建時代から軍国主義に移行し徐々に右傾化しましたが、戦後アメリカの占領下におかれた独裁に近い時代から今日があります。中国の毛沢東、北朝鮮の金日成あるいはソ連のスターリンなどに支配されたらどうなっていたでしょうか。私が以前、中国四川省の成都市にある武侯

ロシア軍のトーチカ跡

祠を拝観して、蜀の太守劉備玄徳や軍師諸葛孔明の廟で、武将の関羽、張飛等の実像に出会いましたが、北方の太守、魏の曹操と何十回にわたり戦いをしています。玄徳は山村に隠居していた諸葛孔明を尋ね、断られても断られても軍師をお願いに行っています。孔明は玄徳の人柄にほれて軍師を受けるのですが、これが世に謂う「三顧の礼」であります。

明治36～37年日露戦争の跡
乃木大将とステッセルの会見場
（旅順）

作家吉川英治氏の三国志を思い出し、吉川氏が戦争の悲哀を預言していました。その一節を披露したいと思います。勿論大東亜戦争も今のウクライナ戦争も同様ですが、戦争とは無残なものであることを思い知らされます。いわく「戦争などの破壊は一挙にそれを成し遂げても、文化の復興までの目標再建は一朝にして成らない。敗戦までの目標は狼煙一つで大衆は結束し勇猛邁進するが、次の再建段階となると、人心の分裂は起こり一朝にして成らない。

初めの同志は同志でなくなり、個々の個性にかえる。意志の疎通や意見の違いは紛乱となり、熱意の冷却が分解作用を呼ぶ」

現在の選挙戦も同様であろうと思いますが？　国民の選挙に対する価値観もそれぞれであろうと思いますが、私の拙い歴史観も自分なりに述べてみましたが、大方の批判を仰ぎたいと思います。

余談

大東亜戦争で陸軍の軍属として南方方面に航空兵として従軍した小林正治さん（大正十二年生れ）はジャワ島のスラバヤで終戦を迎えましたが、小林さんの話によると

※ジャワの極楽、地獄のビルマ、死んでも帰れぬニューギニア※という言葉が将兵の間でうたわれていたと言います。ジャワ島（現インドネシア）方面はオランダとの戦いでしたので、戦闘らしい戦闘もなく食糧もあり極楽であったといいます。逆にビルマ方面（現ミャンマー）に従軍した将兵たちはインパールまで攻めこんだのですが、食料や武器弾薬の補給が途絶えて、最後はタイ国境まで逃げ帰る始末で、多くの将兵は餓死、病死等で全滅に近い状態で、それはそれは地獄のあり様だったといいます。

一方、ニューギニア方面は、連合軍の攻撃が激しい中で孤立し、将兵はジャングルに逃げ込み、食べ物もなく、死んでも帰れない有様であったと言います。私の父もこのビルマ戦線に従軍していましたが、運よくタイのチェンマイまで敗走し、着の身着のままで終戦を迎え、無事に生還した一人でありました。

中村哲医師の歩みに魅せられて

沢松親和会　小　俣　庄　三

アフガニスタンで、人道支援活動に長年取り組んで、現地で英雄と称えられた医師の中村哲さんが二〇一九年十二月に殺害されてか

ら四年余りが経過した。最近の世の人々は、ロシアのウクライナ侵攻での攻防が一番の関心事になっているが、当時を振り返って中村さんの業績を偲んでみるのも必要ではないかと思案していたところ「人は愛するに足り、真心は信ずるに足る」という格好の書物が手に入ったので、この評伝をもとに医師中村哲さんの歩んできた道を振り返ってみたい。

中村さんは、求められていながら誰も行く医師のいない場所があればそこへ行く。なすべき事を誰もなさらなければそれをやる、それがこの二十五年間ゆるがない中村哲の流儀であった。医師として医業にいかに献身してもむなしい答えしかない現実。その原因を除かねば救えない命の数々、死の跳梁を手をつかねて見ていることが出来ず、ついに砂漠化するアフガンの大地に水をもたらす水路建設に率先して取り組むことになる。

アフガンでは二〇〇一年の九・一一後、アメリカ軍と武装勢力との戦闘で治安が悪化し、日本政府がアフガンからの退避勧告を出すが命の危険と隣り合わせの活動が続いていた中で「僕一人の命より何十万のアフガン人の命の方が大事だと思っている、だからいくら日本から帰国命令が来てもここから動かない」そう中村さんは語ったという。たぶん自分の命をアフガンに預けているという想いがあったのだろうと推察する。

中村さんは銃撃された後意識が遠のく中で医師に「ザイヌラたちは大丈夫か?」と、一緒にいたスタッフの名前を挙げ安否を尋ねていた。「自分の命が危ない中でも現地の人たちのことを考える中村さんらしい最期の言葉だったと受け取った」と記者は言った。

クリスチャンでもある中村医師は、若い日に内村鑑三の「後世への最大遺物」を読み、深い影響を受けたという。アフガンでボランティア活動中のワーカーのため中村医師は日本から内村の「後世への最大遺物」を十冊送りワーカー各人に配り熟読するように伝えている。現地の人たちの内面をも大事にしている中村医師の一面をみた感がある。

中村医師の専攻は精神神経科で、どうしてそっちに行ったかと言うと、一つは虫への趣味が捨て切れなくて、精神神経科だったら閑だろうと思ったのと、もう一つは対人恐怖症にかかっていて、その為に人間の精神現象に対する興味を持ったので大牟田労災病院の精神神経科に勤務するようになったが閑でも何でもなかった、と笑って語ったと云う。

なぜかある時気がつくと対人恐怖症が無くなっていた。それから確かに人が変わりましたね。聖書などにも「人間は立派じゃあないと救われない」なんて書いてない。悪人だって…。それから楽になった、自分に取っては非常に大きな転回点でしたと回想している。

中村さんは二〇〇〇年代初めての大干ばつをきっかけに灌漑用水路の建設に着手。水源の確保や乾燥地の緑化に貢献した。

中村さんは現地スタッフと同じように砂袋を担ぎ日が沈むまで働いた。そんな中村さんの姿に胸を打たれたと話す人に多く出会ったという。中村さんはブルトーザーやトラクターなど自ら重機を運転し、一貫して現地の人に寄り添っていた。重機を運転したりする方が医者より向いているのではないか、また医者であることを忘れて

しまいそうになることもある等土木工事に没頭している姿が窺える。

ここまで中村さんの生き方について視点を変えてみてきたが、何故こんなに命までかけて自身のことよりアフガンの人達の事を考え行動できるのか探ってみたいと思う。

幼少の頃から虫が好きで虫を追って山に登ることが楽しくなった。ヒンズークシュ山塊、その最高峰ティリチ・ミールの白銀にきらめく山容を初めて目にした時の感動と、両親から、ひきつがれた「人の役に立つ人間」であることへのゆるがぬ意志とが相俟って、いつしか引き返せない人生に踏み入っていた。

見捨てられ生き延びる手段のないハンセン病患者の治療、登山会の同行医師として医療の手の全く届かない山岳地帯に住む人たちに出会い、救いを求める手を振り切って山を下りねばならなかった。医学の恩恵から完全に見捨てられている村々を歩き、直接我が手で触れ我が目で惨状を確かめた中村医師は、一歩一歩アフガン難民の窮状に寄り添っていく。ついには白衣と聴診器を手放し、「百の診療所より一本の水路を」と現場で陣頭指揮をとるに至る。

貧しい者、病める者に生きていく具体的な答えを齎(もたら)そうと医療活動は井戸掘りへ、更に水路建設へと現実に対応しながら変化し、揺るがずに来た。

日本人が技術の進歩と経済繁栄のかわりに失った古来からの自然、人の心のやさしさ、ゆとり、喜び。パシュートウン民族の住む一帯はもとより天国ではない。だがテロの巣窟ではない。内戦・貧困。教育や医療の遅れの一方に、現代文明に侵される以前の、人間本来の心、安らぎがある。そこに憩いと癒しがあればこそ、三十年に近い「苦業」は持続され得たのだと思うと、対談者澤地久枝さんは語る。

どん底の人達との密接な触れ合い、多くのボランティアや働き手と生活を共にして中村医師は無類の「人間好き」になったと思われる。「人は愛すべきものであり、真心は信頼するに足る」と云う一つの結論を胸に医師は今日もアフガンの空の下、水路の完成に全力をあげていると澤地さんは述懐している。

その中村医師が大変な事件にまきこまれた。東部ナンガハル州で二〇一九年十二月四日、中村さんらが乗った車が銃撃され現地人五人と共に殺害された。中村さんが医療支援や灌漑事情に取り組んでいる最中での出来事のため、思い半ばの不慮の災いに遭い胸中いかばかりであったろうと思慮する。

イスラム主義勢力タリバンが政権を崩壊させてからこの二月で一年半になる。力ずくで権力を奪ったタリバンの治めるアフガンの現状は「苦しむのは子供や女性達」「ドクターナカムラのようになりたい」でも女子中高生は通学が許されない。タリバン復権で国際援助がしぼんで経済も低迷していて世界最大の人道危機という指摘もある。

今この惨状を中村さんは天国でどう見ているのでしょう。勿論、中村さんが健在であったとしても一朝一夕に解決する問題ではないが、少なくとも状況は現在よりは好転していると思う。

今後タリバン政権がどう変化していくのか、又国際社会がどのような支援ができるのか気になるところではある。

「田舎と都会」

西原なかよし会　長田助成

山村の河の流れつく所に平野があり、そこを中心に人家が沢山集まり、色々の人々が多勢生活する所が都会で、そこには必然と生きるための便利な店、集会所、娯楽施設、役所、福利のための公共の場所が出来る。

上流にはダムが水を貯えており、川は氾濫しないよう護岸工事がされ、大量生産、大量消費が日常となって、きれいな空気と水を要求し、自分達は汚れた物を下水として海に流出させ、自然を壊し続けている。

田舎は、少しの平野を耕して食料を生産し、山で人家用の木材を育て都会へ供給する場所である。生活には不便だが、自然が豊かだという別の意味の宝を守り、人々は暮らしている。しかしこの頃、その自然の変化が大きくなりつつある。

私は森林を育て守る仕事を生業としていたが、二十年程前この地域の風景が違う事に気づいた。畑は桑の木が伸び、くずの葉がからがり、畑の近くまで杉・桧が迫って来ていて、畑の作物は小さく、育ちが悪い。砂漠に似た現象だ。古老達の話では、昭和三十年前後から家になる用材が高値になりだしたので、どんな場所にも杉・桧が植えられた為だとのこと。

畑には雑木林からの落葉を入れ、近くから芝を刈り込む。馬、牛、ヤギなどの糞を入れる。この事を先祖達が何代も何代も行なってきたから、今の畑がある。それが今、出来ていない。土に力がない。収穫する穀類に本当の風味が無くなっているとのことだった。

今、ある国が穀物の沢山採れる国へ押し入り、武力でそこの地域を我が物にしようとしている。

大きな面積を持つ国でも作物の数量が減少しつつある。ヘリコプターで空から種と肥料を播き、コンバインで収穫している。木の伐倒の一途で世界の四大文明があった地域は木も草も育たない砂漠になりつつある。日本の田舎は日本の食料を確保する場所として大事に手を加え、風景だけでなく、畑近くの杉・桧は伐り片づけ里山、柴山を復活して、土に力のある畑づくりを心掛け、田舎は国の基でありバランスのとれた自然を汚してはならない。都会のゴミ・汚染物質を運び込んではならない。田舎はゴミ箱ではない。化学肥料でない落葉と柴と動物達の排泄した有機物の入った畑と水田をつくり、自国の食料は田舎が生産し、都会は上流域を応援し、双方でこの国を造り、未来へ手渡すことを考えたいものだ。

便利を追求し、大量生産、大量消費だけ求めると大気汚染という環境汚染を残す。日本は江戸時代より「リサイクル」の立派な文化があり、それで繁栄してきたことを忘れてはならない。

西原では、かつて尊い水田を地域で買い取り行政に寄付し、子供達に都会なみの教育を受けさせるためコンクリートの小学校・定時制高校の校舎を建て、給食センター・プール・体育館・グラウンドを建設した。これらの事業を行う人達はＰＴＡなどの役員であった事に驚きを感じている。その教育に対する熱意に今を生きる私達はとても真似ができないことだ。先人たちのご苦労に頭の下がる思いである。

古老達の農業への教訓

①畑から収穫した物量の肥やしを入れろ
②雑草と雑木の枝を入れろ
③落葉を入れろ
④くな（連作）をするな
⑤畑の雑草やゴミは畑の外へ出さず土の中へ埋めろ
⑥コンニャク畑は鎌の柄の深さまで柴を入れろ
⑦雑木林と柴山が畑をつくる
⑧土用中の柴は畑の中をかついで通っても肥やしになる
⑨麦畑の雪は、人間が布団を着ているのと同じだ
⑩南側の日向の畑は大麦と小麦、日陰の北向きの畑はイモ類を作れ
⑪縦に鍬は使わない事、アローズが押すので、注意
⑫大根・じゅうろく（いんげん）種を中心に間肥をしろ
⑬収穫後、カッチキを集めカマド用としゴミをうない込む冬伏せをする

『蜂鳥の一滴』でもいいから私達も行動を起こそうではないか。

ゴッホのお墓参り

四方津シニアクラブ　斉田　ミマコ

「あなた！　自分の家のお墓参りもしないのに何でゴッホなのっ！」と、身内の者に言われました―確かに！　でも行きたい―私の思いです。実は私は上野の美術館でゴッホの有名な糸杉の絵（星月夜）を見たのです。ビビ！　何か体に強い彼の思いが伝わったような・・・そんな気がしました。　青い夜空にうねる様な糸杉、怪し気（げ）に光る月の光、「僕の思いが分かりますか？」と問うゴッホの叫びが聞こえたのです。

それまで私は大らかに大胆に色と構図を楽しむマチスの絵が大好きでした。でもゴッホの絵を見て以来ゴッホ大好きオバさんになりました。・・・そしてお墓参り実行の為フランスに行く計画を立て、彼の墓地のあるオーベルに知り合いもなく一人で旅立ったのです。

まず西洋民宿ＢＢ(Bed and Breakfast)をネットで予約しました。旅はいつも、このＢＢ利用です。その訳はホテルと違って住んでいる人との交流がある・・・実は、これは二番目の理由で、一番目は安い！からです。

仕事柄夏の休暇が長く取れたのでまずはフランスへ飛びました。美術館、凱旋門、エフェル塔など名所巡りの後、最後に彼のお墓のあるオーベルに向かいました。私の宿はオボーンと言う所…そこから北に電車で一時間程の所です。出発！　その頃のフランスは田舎に行く程英語が通じない―と言うかあえて使わない土地柄でした。でも無事着いて駅を降り回りを見渡すと目の前に彼が最後に過ごした静かな田舎町が広がってます、二階にある彼の小さな部屋―粗末なベッドと椅子―私は感動でした。それからお墓へ行くには少し登り坂を歩きます。すると、突然古めかしい、どっしりとした教会が目の前に表れたのです。〃エッ！　これって彼の描いた有名な

教会では！

今迄見たヨーロッパの美しい建物と違い素朴なコンクリート造りの荒々しい感じでした。私はもう感激で、彼が描いた角度の場所をいろいろ探し、アッ！　ここだ！　と立ちつくしました。お墓はさらに先でそちらに向かって歩いている途中…。突然、彼の絵にある麦畑が表われたのです。不気味なカラスの居ない太陽の光の中で美しい麦畑でした。

私はあまり細かく旅の下調べをする人ではないのでこの教会、麦畑は絵で知っているのみでしたので感動一入だったのです。

さらに歩くと彼のお墓が、彼の生涯をサポートした弟のテオと並んでありました。ただ大きな平らな石。誰か訪れた方がひまわりを添えてありました。ゴッホは彼が生きている間恵まれなかったので、その人生を思い私は静かに手を合わせ祈りました。「素晴らしい絵をありがとう」

私の一人旅は今思うとかなり大胆な行動かもしれませんが若さと言うか…今は無理です。あの頃は何故か日本を脱出したかった！　海を渡りたかった！　人生そんな時は誰にもあります。あとは動くかどうか…ですね。

上野原賛歌！その二

上野原の二重虹に思う！

新三すこやか会　谷口文朗

上野原に来て体感した明治の魂の余韻　私が三十年前に上野原に着任して最初に気付いたことは、上野原には『フリーダム』という明治の魂の余韻が残っていることでした。海抜一四〇メートルの桂川の水面より一二〇メートルも高くに位置している高台にサイフォンの原理を生かして桷原から水を汲み上げた魂、子どもたちの教育のために山林を寄贈された魂、日大明誠高校のための敷地を寄贈された魂・・・の余韻に触れた時でした。生まれて来た子どもに『明治郎』と命名していた明治の魂の躍動に思い至った時でした。

『古事記』の魂　上智大学渡部昇一名誉教授によって『日本の伝統を辛うじて繋ぎとめている世代』と評価された一九三六年生まれの私が、中国の漢字を借用して七百十二年に書き留められた『古事記』を竹田恒泰氏による現代語訳によって事こまかに読み解いて確認したことは、①天照大御神が孫の邇邇芸命に命じられた地上を『シラセ』という命令、民のことをよく知って民のための政を行いなさいという命令が男系一統の天皇によって今の世に受け継がれていること、②大国主命の政は天照大御神の六代孫の政であるがゆえに『シラス』ではなく『ウシハク』（地上の権力者のための政治）と断罪されたという日本の創世記でした。『シラセ』という命令に違反して地上で『ウシハク政治』を行なった神様は『死刑』もしくは『国譲り』という厳しい裁きを受けたことを知りました。『シラス』とは、今の言葉で言えば、有名なリンカー

ン大統領の『ガバーメントフォアザピープル』と同じです。

明治憲法第一条は『古事記』の魂　明治維新までの七百年、日本は幕府による『ウシハク政治』の時代を過ごしましたが、『古事記』を学んだ私は、明治憲法の草案の作成を伊藤博文から命じられた井上毅（こわし）が『古事記』の『シラス』という政治理念を明治憲法第一条に取り入れ、『日本は天皇がシラス国』と書き留めたことを確認しました。同時に、この井上毅が明治時代の儒教の権威によって作成されていた教育勅語の原案をフリーダムの考えに従って全面的に書き直していたという歴史の事実も確認しました。

明治の時代は、『国家と人道の基本』を儒教からフリーダムに置き換え、フリーダムの思想に基づいて、明治憲法と教育勅語を真っ白なキャンバスに書き下ろしていたのです。

『フリーダム』とは！　『フリーダム』とは『自由』ではありません。『フリーダム』とは『国家の場合は他国に支配されていない』、『個人の場合は他人の奴隷にされていない』という『自主独立の立ち位置』であります。『自由』とは『自主独立のために戦って勝利した後でなければ手に入れることができない立ち位置』なのです。

この『明治のフリーダムの魂』は、孝明天皇が急逝され、齢十四歳で即位された明治天皇が翌年に発せられた『五カ条の御誓文』に由来しています。私は、木戸孝允ら明治維新のリーダーが起案した御誓文はフリーダムという言葉を用いることなく『封建時代を支配した儒教社会の束縛から自分自身を解き放て！』という天命であったと確信しています。

強調されなければならないことは、明治の魂が『フリーダム』という英語が漢字に訳される前に、『フリーダム』とは『自由』ではなく『自主独立』であることを本能的に理解し、五カ条を書き下していたという事実です。

吉田茂著『日本を決定した百年』の記述　私はこのことを吉田首相が自ら英語で書き下して世界に向けて日本を語った『日本を決定した百年』（一九六七年版『エンサイクロペディアブリタニカ』）の日本語訳の中に見出しています。「一八六三年に（トマスグラバーの手引きで、国禁を破って）ひそかに英国に留学していた伊藤博文（と井上馨ほか）が『自分たちが学問を修めることが出来ても、自分の国が滅びては何もならない』と言って急遽帰国し、攘夷を思いとどまらせるために努力した」と書き留められているのです。

明治の開国後の日本は自主独立のために戦ってアメリカに敗れ、敗戦後に平和国家を建設した！　明治の開国後の世界では国際法の下で国際紛争解決のための武力の行使が認められていました。日本はアメリカとロシアとヨーロッパから押し寄せる武力を背景とした領土拡張の国家意志が鬩ぎ合う中、自主独立（フリーダム）のために戦い、最後にフリーダムを建国の理念としたアメリカに敗戦して占領されましたが、新憲法の下、不戦を誓い、平和の祭典オリンピックを二度東京で開催し、『フリーダム』と『デモクラシー』を国是とする平和国家としての力量を存分に発揮し、世界から信頼される国家になりました。

私は上野原の二重虹の中に『明治の開国後一五〇年間に令和の今を生

きる日本を創り上げた日本の歴史』を見出しています。

二重虹に日本の未来も見出したい！　『むろがや』三十九号の二十四ページに、私の上野原研究の導師の一人の長田助成元市議会議長が「ご子息を戦争で失われた母方のお祖母さまのこと」を書き記され、「どんな事態が起きても武力での解決は行なってはならない。皆の力でその方向へはNOと言おう」と書かれています。

その通りです。そのために、今、日本は『フリーダム』を国是とする国々と結束して、戦後世界の平和のシンボルとされた『国連という名の戦勝国連合』に代わる『フリーダムソリダリティー』（自主独立連帯）という新しい国際機構を構築し、NATO型の集団安全保障体制の中で日本の平和と安全を確保し、世界の平和と人権と難民問題解決に向かって能動的に働きかける中で、『ウシハク国家』であるロシアと中国と北朝鮮が『シラス』国家へ変容するのを待つという日本の未来の夢をダブルレインボウに見出したいと念願しています。

その前にせねばならないことがある　私は、ダブルレインボウに日本の未来を夢見たいと思う前に必ずしておかなければならないことがあると確信しています。それは、上野原町史と秋山村村誌にお名前が書き留められている太平洋戦争で戦死された上野原町七百二十一柱、秋山村百二十六柱の尊い命を覚え、魂の平安を唯ひたすらに祈り、上野原のリバーテラスのお社（やしろ）に祀（まつ）ることであります。

〈上野原賛歌その二　完〉

ダブルレインボウ撮影のメモ

島田桂生会　行田敏雄

私は小学校二年生の時に太平洋戦争が始まり、終戦後焼け野原になった東京で少年時代を過ごした世代です。十七歳の時、東京のカメラの会社に入社して二十年間勤務し、三年間でしたが会社の写真部に所属し、写真を教わりました。上野原で生まれ育った妻と中央線の電車が上野原駅に滑り込んでくる線路のすぐ下の緩やかな南斜面の新田に居住して、桂川の四季折々の景色を眺めるようになって早くも五十三年になりました。

私が本格的に写真を始めたのは六十五歳の時でした。鶴川にお住いの臼井努さんと出会い、『撮ろう会』（現上野原写真クラブ）に入り、現在に至っています。長田会長、クラブの皆様と写真に携わる事が出来て幸せな日々を過ごすうちに、桂川の対岸に虹が現れる条件が分かるようになりました。

令和二年（二〇二〇年）九月七日、午後二時三〇分頃、大粒の雨が降り始め、約四〇分後に霧雨になり、西の空に太陽が輝いていました。虹が現れると思って東の空を見るとやはり雲一つない青空に虹が現れていました。

私は急いでカメラを持って河原へ行きました。撮り始めて気がつきました。もう少しワイドなレンズを付け

て来れば虹全体が撮れたと思うと残念です。太陽が動くためでしょうか、虹はすぐに消えてしまいます。急いで望遠ズームがついたままカメラを持って河原まで急いだのでした。

虹は大きく出るのが普通ですが、その時の気象条件で半分しか出なかったり、虹の根っこの部分しか出なかったり、時と場合によって色々ですが、私自身二重虹の撮影ははじめてのことでした。虹が近くて大き過ぎたというあり得ない二重虹との出会いでした。

この時に撮影した二重虹の写真は当時島田桂生会市川武士会長のご尽力によって『むろがや』三十八号の表紙に「二重虹（ダブルレインボウ）幸運の象徴―見た人に幸運が訪れるといわれている」という説明とともに掲載されました。

私は翌年の『むろがや』三十九号を見て驚きました。「上野原に現れたダブルレインボウは世界各地の六十余枚の写真の中で最も美しい写真」、「あの近距離で捉えられた映像は世界最高の映像」、「JR上野原駅の展望タワー五階から二重虹が出た場所を確認できる世界に誇れる映像」という評価が投稿されていたからです。

『むろがや』三十九号に投稿された谷口先生から撮影記録の投稿と上野原のみなさま方にご覧になって頂けるようにA3版に拡大した写真を市役所に届けるよう勧められたことを付記します。

虹との出会い、人との出会い、面白いですね。『人生いろいろ』です。

笛吹川と笛吹権三郎

コモアクラブ　中沢　敦

八十路（やそじ）の坂に突然、新型コロナなる得体の知れないものが現れ、しかも三年近く居座られて世相を一変してしまい毎日鬱々とした日を過ごしています。一人、窓越しに秋の夕陽を眺めながら、ビールのグラスを友にぼんやりと妄想に耽ければ浮かんでくるのは、遠く過ぎ去った帰らぬ日々の事ばかりです。

先日、死去したエリザベス英女王の即位戴冠式の行われた凡そ七十年前は高校生の真最中でした、下校途中に笛吹川にかかる亀甲橋のたもとに自転車を止め、六尺ふんどし（水泳パンツはなかった）をきりりと〆て雨で水嵩の増した笛吹川の急流に飛び込みます。しぶきをあげ水音を立てながら水の流れは早く、如何にして流されないで三～四十メートル先の対岸に泳ぎ着くかを競います、やや川上に向って斜めに飛び込み、懸命に両腕を回し泳ぎます。

この笛吹川を全国に知らしめたのは、深沢七郎の書いた小説「笛吹川」を一九六〇年の芸術祭参加作品のために名匠木下恵介映画監督が自ら脚本を書き、メガホン持った映画「笛吹川」である。話題を呼んだのは、モノクロフイルムに部分的に色を焼き付ける手法を用いたことと主演の高峰秀子が十八歳の少女から八十五歳の老婆までの六十七年間を一人で演じたことである。他の出演者は田村高廣、市川染五郎、岩下志麻、河津祐介…物語の内容は、全編甲州弁を用いて、時は戦国、武田三代の時代を背景に笛吹川のほとりに住む貧農一家の五代にわたる六十余年の生きざまの物語である。戦国

武田時代と言うと勇ましい戦の話ばかりだが、ぐっと目線を落とし第三者の視点で最下層の貧民に合わせて、生活を求めて武田軍団の尻尾について行き、戦の落穂でも拾えたらと懸命に生きる一家の物語である。

この映画の中で話題になった一つの言葉が「ギッチョン籠」である。ギッチョンとは甲州弁でキリギリスのことを言う。この鳴き声からとったものでキリギリスを捕まえて入れる籠をギッチョン籠と言い、麦わらだけで編んで作る。娯楽の少ない子供の頃ギッチョン籠を編み、キリギリスを捕まえキュウリを餌にして飼育したことを思い出す。映画の中のギッチョン籠はこの貧農の家を川の対岸から見るとギッチョン籠の様に貧相なので村人はそう呼んでいた。

作者の深沢七郎は県立日川中学（県立日川高校）の先輩で、この作品の前作の「楢山節考（ならやまぶしこう）」を著（あらわ）している。楢山節考も名作で古く甲州に伝わる「姥捨（おばすて）」の伝説を今村昌平映画監督が脚本も書き緒形拳、坂本スミ子が共演して、この年のカンヌ映画祭でパルムドール賞を獲得している。深沢七郎は作家としても有名だが、ギターリストとして名を馳せ戦後は東京・有楽町の「日劇」にレギュラー出演していた。

この笛吹川は奥秩父山魁の甲武信ヶ岳や国師が岳の標高二五九二メートルを水源として差出（さしで）の磯、万力林（万力公園）辺りまで一気に流れ下り、大雨の後など二～三日は川底を石がゴロゴロと転がる鈍い地響きのような音と水音が響いていた。

その「笛吹川」の名前の由来はどこから来たのか、いろいろな伝説があり、どれも内容は大同小異である、東山梨郡誌には次のように書かれている。

「むかし、三富村上釜口(笛吹川上流)に、日原権三郎という若者が住んでいました。権三郎は笛が上手で、何時も笛を吹いていたから、誰いうともなく「笛吹権三郎」と呼ぶようになりました。

笛吹権三郎の石像

権三郎は年取った母親と二人きりで暮らしていました。この母親も笛が好きで、権三郎の吹く笛の音を聞くのが何よりの楽しみでしたから、孝行者の権三郎は、暇さえあれば笛を吹いて母親に聞かせて、自分もそれを楽しんでいました。

こうして二人は仲よく暮らしていましたが、ある年の秋、大洪水があって、権三郎も母親も、家もろとも、濁流に巻き込まれ流されました。夢中で流されて行くうちに、年若い権三郎は大岩にかじりつきやっと助かったが、母親の姿はどこにも見当たりません。

「おっ母、おっ母」

と権三郎は声をかぎりに叫んでみたが、母親はもう帰ってきませんでした。

「おっ母は死んじまったずらか、どこかに生きていて俺を探しているずらか、この笛の音を聞けばきっと帰ってくるら」

そう思った権三郎は、三富村から春日井村までの笛吹川の川沿いに、雨の日も風の日も笛を吹きながら母親をさがして歩きました。夜になっても笛の音が聞こえるので、村の人達は、

「権三郎もかわいそうに」といって評判でした。

ある朝、大さわぎが起こりました。

「正徳寺河原に水死人があがった、権三郎が死んじまった」
口々に言いながら駆けつけた村の人たちは、権三郎の哀れな姿を見て、みんな泣きました。権三郎がなぜ死んだのかわからないけれど、みんなで、手厚く葬ってやりました。
そののち、まい晩、人が寝静まった真夜中になると、この川ばたのどこからともなく、かすかな笛の音が聞こえてきました。それで、
「権三郎の幽霊が出る。笛吹川には鬼火がたつ」
といって、村人たちは恐がって、夜など出て歩く者はなくなりました。
そのころ、浄土宗の長慶上人というえらい坊様がまわって来て、この話を聞き、権三郎のために供養して、お経をよんでやると、あれほど村の人たちを悩ました笛の音もやんで、村はふたたび明るく賑やかになりました。
それからのち、この川を笛吹川と呼ぶようになりました。洪水のとき権三郎がとりついた大岩を「権三郎岩」といい、また村の人たちが建ててやった「権三郎不動」という祠(ほこら)も残っています。
「一説にはこの川は上流から差出(さしで)の磯の辺まで、川底に石が多く、その石にあたる水の音がむせぶように、笙の笛を鳴らすように聞こえるから、それで笛吹川というのだとも言います。」他は略。

一期一会

田町寿クラブ　水越　久

昨年の「むろがや」に、ノーベル賞を受賞された大村智博士との出会いについて少し紹介しましたが、その時、「風林火山の四字を横書きで」と、驚きのお言葉を頂き揮毫しました。
令和四年二月、博士より「額が仕上がり、国の登録有形文化財に登録された私の生家(螢雪寮)に掲額させていただきました。是非、韮崎にお越し頂き、ご覧頂きたく…」という、とても嬉しい内容の手紙を頂戴しました。
三月には、「かねてからの約束のように五月の連休中に螢雪寮や美術館を…中略。貴殿及び奥様にお越しいただければ…」と、身に余る光栄な手紙を拝受しました。約一か月間、以前にも増してコロナ感染防止対策を徹底し体調管理に努めました。
四月三十日に博士のご自宅に参り、応接室で暫くお話をさせていただき、そして富士山の見える居間、周囲の山々が見渡せる書斎、博士の生家(螢雪寮)と「風林火山」の額、父母像、美術館などを案内いただきました。
「風林火山」の作品が自分の手元を離れ、国の登録有形文化財に登録

された博士の生家に掲げていただいたのを見上げ、書道を続けてきてよかった。銀座の展覧会で大村博士に出会えてよかった。心をこめた「風林火山」を揮毫できてよかった。数か月間のいろいろの出来事が胸に迫り、感涙にむせぶとでもいうのでしょうか、ただただ泣けてきました。

螢雪寮は、大村智博士が幼少期から山梨大学を卒業するまで過ごした生家です。主屋は明治初期につくられ、明治四十年頃に現在の規模となりました。地域を代表する養蚕農家の伝統を受け継ぐ建物としての価値が認められ、令和二年四月三日に国の登録有形文化財に登録されました。螢雪寮の周囲も案内していただきました。池の横の石には博士直筆の「実践躬行」の文字が刻されていて、「自分が言ったことは、身をもって（躬）しっかりと実行しなさい。」ということを意味する言葉です。博士の父母像の前後には、桑の木が植樹され、ご両親と博士と桑と蚕は太い糸で繋がっているんだなあと、改めて感じました。

午後も予定が入っているご多忙の中、二時間十五分もの長時間にわたり、博士と一緒の時間を過ごさせていただきました。帰りの車中で妻は、「夢のような幸せな時間でした」と、とても嬉しそうに晴れやかな表情で語っていました。私も同じ気持ちでした。四月に私たちは結婚して五十年を迎え、妻にもいい贈り物ができ、この日のことは鮮明に記憶されることと思います。

また私の所属する上野原書道会でも九月四日に研修旅行を実施し、螢雪寮に行きました。私は前もって博士に、「上野原から一八名が伺いますので、ぜひお言葉をいただきたい」と、身勝手なお願いを致しました。当日、参加された皆さんが螢雪寮に入って、広い板の間に座って静かになったところで、私は、「今、大村智博士がお見えになります」と、参加者には初めて博士がお見えになることを告げました。全員の驚きの様子は筆舌に尽くしがたく、ご想像にお任せするしかありません。私だけでなく上野原書道会の方々にも、このように博士と間近に接する機会を設けることができ、研修旅行を企画してよかったと思っています。

ストックホルムでのノーベル賞受賞記念講演で、大村智博士は「一期一会を常に信条としてきた」と述べられました。すばらしい出会いが続いたので私は、昨年の第五十一回全書芸展に「一期一会」と揮毫し出品しました。書道が縁で私は夢のような出来事を体験し、測り知れない学びを得ることができました。

研究

日本、花の文化小史（四）

塚場長寿会　諸角　弘

前回に引続き、大発展を遂げた江戸時代の花文化の跡をたどってみようと思います。ところで下の三点の写真は何の花でしょうか。

実はアサガオで、変化アサガオという品種のものなのです。アサガオについては「むろがや」三十・三十一号に拙文が掲載されておりますので、ここでは「変化アサガオ」について記します。

奇妙な花・変化アサガオ

中国から伝来されて以来、青一色だったアサガオは、四代将軍家綱の頃に明色が出現したのを契機に鑑賞用として急速に発展し、葉や花の色や形も変化に富み、花模様も覆輪、縞、曜伯と多彩になり、その姿や花形から想像もできない奇妙な花―、それが変化アサガオです。

特異な遺伝子の組合せにより極端に変化した花を求めて創造されたのです。江戸の人々はメンデルが遺伝の法則を発見する百年も前から遺伝の法則に則った実験を行い、変化アサガオを生み出していたのです。そうした変化アサガオのブームの反映なのでしょうか、滝沢馬琴の日誌には庭に栽培しているアサガオに名札を付けている様子が書かれています。

今次大戦で品種が散逸しましたが、好事家や研究者の努力によって復活し、九州大学では栽培の研究に取り組み、国立民族歴史博物館や品川の魚藍寺では毎年、変化朝顔展が開催されています。

下の写真①は白色の総管弁獅子咲牡丹、②はピンク色の数切獅子咲牡丹、③は紺色の覆輪桔梗八重です。桔梗咲きの品種は種が市販されていて、私もかつて作ったことがあります。なお写真④は漏斗状の「縞」です。

花の王者・キク

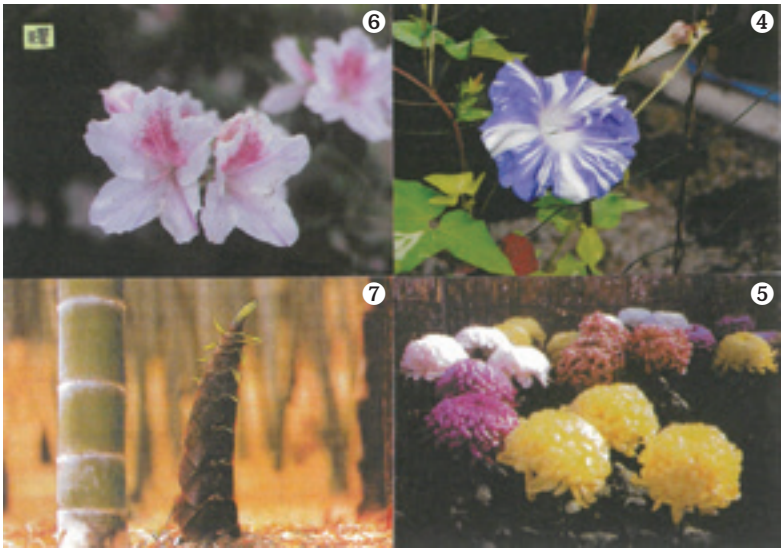
江戸時代にキクの栽培技術が高度に発展して、大輪咲きの多くの新種が創り出されました。それで「菊合せ」という品評会が盛大に行われ、入賞した「勝芽」は一芽が三両（十五万円）にもなり、正徳、享保、寛政の時代には大流行となりました。今日、菊花の季節になりますと各地に品評会や展示会、それに菊人形展が開催されますがその源は江戸時代にあるのです。

現在、キクの品種は全世界で約二万三千種もあり、顕花植物最大の植物群で、双方葉植物の頂点に立っています。高貴な花形として多数の品種、キクはまさに王者です。写真⑤は大野地区で撮影。

野山や庭で美しさを競う・ツツジ

ツツジは万葉時代に歌に詠まれていますが、自然の美しさを賞でるのが主で、栽培されるようになったのは江戸時代からで、江戸の

植木職・花戸三之亟が熱心に栽培に取組み「元禄のツツジ」の流行を現出して流行の第一期に貢献しました。その百年後の享保年間にこれまで挿し木で増植していたのを実生による育種が始められてクルメツツジが誕生しました。現在、ツツジは野生種や園芸種のものが野や山にそして庭にその美しさを競っています。写真⑥はわが家の庭のツツジでヒラドツツジ系の「曙」です。



庭園を潤す竹

竹は若い茎は食用に、茎は生活用品、工芸用品、建築材として用いられ、古来日本人と深い関係をもち、また観賞用として庭園を彩る植物として珍重されました。薩摩藩主が品川の下屋敷に「門外不出」として育てていた琉球経由の孟宗竹の根茎を持ち出そうとした植木屋はお手討の処刑になったといわれ、後にこの付近は、「目黒の筍」の名産地になりました。写真⑦は孟宗竹と筍です。

調布市の神代植物公園の竹林では多くの品種を鑑賞することができます。（つづく）

ねがいかき願書（世宝明鑑から）

沢松親和会　井上　肇

御年貢米、金納始之願書

乍恐口上書付ヲ以御訴訟申上　候

長谷川六郎兵衛御代官所郡内領村々

訴訟人

惣百姓

一つ　此の度御代官様より　当御年貢米

江戸廻し、御蔵御上納　仕るべき旨　仰せ

付けられ候えども、御請け申し上げく、御訴訟申し上げ候。

先達て御巡見様へも、委細申し上げ奉り

候通り

郡内領は、富士山の麓にて、普段雪霜の

寒気を請け、風雨も強く御座候に付き、

田方稲薄く、取実御座無く、殊に麦作仕付けの為、他所より一ヶ

月余も早く、刈り入れ申し候に付き、残らず、青米しいなの

悪米。御蔵御上納　仕るべき米、曾て御座無く候。

其の上、出来方計りにて、村々飯料不足ゆえ、伊豆駿河方々

より、夫食米貰い入れ候事、紛れ御座無く、

また、江戸廻しの儀は、新田と申す所まで、山坂随分の難所、

拾弐三里ずつ、付け出し申し候えば、人馬殊のほか疲れ、

須賀と申す所まで船積み。其の間、拾弐
三里余、これまた四季ともに、電落ち込み至る川筋に付き、
壱艘に拾四五俵の外か積み候事叶い難く
剰え破船等仕り迷惑致し候間、
御慈悲に御蔵米　御張紙の通りに、御値段を以て、在所に於いて、金納に仰せ付けられ下され候わば、有難く存じ奉り候。・・・
中略・・・
正徳三年
巳十一月
御奉行様

用語

御蔵…江戸浅草の幕府米蔵
御巡見様…巡見使の尊称。将軍の代替り毎に幕領の施設や民情などを査察させた。
取実…収穫。作物のみのり。
仕付け…種蒔き。作りつけること。
青米…
出来方…生産高。作物のみのり具合。
夫食…百姓の食糧。主に雑穀をいう。
紛れ…間違いなく。判別がつかない状態。
江戸廻…大坂から江戸への船で荷物を運ぶこと。ここでは新田からを言う。
随分…はなはだ。すこぶる。かなり。
須賀…
剰え…そればかりでなく。理由を表す。
御蔵米・御張紙・御値段…各地の幕府米蔵に納められた米・江戸城内の中ノ口に張紙した・米と金（両）の公定換算値段。
在所…居住する場所。知行地。
金納…年貢を貨幣で納めること。
★相模川の舟運と相模湾の海運が交差する重要な湊であった（平塚市）
候…～でございます。～します。「ある」～を丁寧に表現する語。
候候得共…～ですが。
御座候…あります。ございます。ある。御座有（あり）有の丁寧語。
御座無く…ございません。おいでにならない。なしの丁寧語。
御座無候…～ではございません。御座候の否定形。
候間…～でありますので。～しますので。理由を表す。
候得者…～したので、～したならば。
候ハヽ…～したならば。

附（つけたり）

一、「世宝明鑑　全　寛政十二年庚申正月八日　此主　長田左多夫」駒橋村の古文書です（一八〇〇年）。尚本件は大月市郷土資料館古文書研究会の鈴木先生から了承を得て講義資料を投稿しました。
二、御年貢米金納始之願書は、年貢を米納から金納にしてほしいというものです。郡内（都留郡百拾壱ケ村）の米を江戸廻米するように言われて、郡内の米は不味くて食糧不足だから送る訳に行かないという断りから始ります。正徳三年（一七一三）は　徳川家継の代替りの年で　一七一六から徳川吉宗です。
三、古文書　差出人・受取人・、用件・日付などを備えた過去の時代の古い文書。
四、候文　漢文なりの文、丁寧語「候」を用いて書かれた文（文語体）。江戸時代の公用文字は御家流と呼ばれた。昭和二十年、終戦により　候文と縁が切れ国語表現や公文書作成要領等が現代風となりました。

創作

願いを込めた千羽鶴

沢松親和会　市川幸子

毎日毎日、テレビのニュースは、戦争で大勢の人が亡くなったり、家や建物が壊(こわ)されている様子が流れています。

その度に、おばあちゃんも、お母さんも、みきちゃんも、

「なんて、ひどいことするのかね」

「かわいそうだね」

と言いながら、涙を流すのでした。

そんなある日、みきちゃんが学校から帰るとおばあちゃんは、こたつにあたりながら、一生懸命、折り鶴を折っていました。そして、みきちゃんの顔を見ると、

「みきちゃん、おかえり。ほら、千羽鶴は願い事を叶えてくれるって言うから、早く戦争が終わって、平和になるように、ばあちゃんは、千羽鶴を作って、お宮に奉納(ほうのう)しようと思ってね。みきちゃんも手伝ってくれるかい」

と言いました。

「えっ、そうなの。いいよ、手伝う。だって、ほんとに早く戦争が終わってほしいもの」

みきちゃんは、急いでランドセルを片づけると、おばあちゃんと一緒に鶴を折りはじめました。

夕飯を食べると、お父さんもお母さんも、

「へー、折り鶴か、折ってみるかな」

「折り鶴なんて、久しぶりだね」

そんな事を言いながら、みんなテレビも観ないで、真剣な顔で鶴を折るのでした。

みきちゃんが、千羽鶴を折っている話をすると、友達の里沙ちゃんも、

「みきちゃん、私にも手伝わせて」

と言って、学校が終わるとみきちゃんの家にやって来て一緒に手伝ってくれました。

みんなで毎日頑張ったので、十日目には、とうとう折り鶴は千羽になりました。

「やったー。ばあちゃん、できたね」

「みきちゃんたちが、頑張ってくれたからね。さあ、明日は、お宮に持って行くよ。みきちゃんも土曜日だから一緒に行くかえ？」

「うん、行くよ」

おばあちゃんは、出来上がった千羽鶴を手で目の高さくらい持ち上げると、嬉しそうにながめました。そして、戸棚から、白くて細長い紙を出してきました。

「さあ、みきちゃん、この紙にお願いする言葉を書いてね」

「えっ、私が書くの？」

「そうだよ。みきちゃんが、一生懸命作った千羽鶴だからね」

「なんて書けばいいの？」

「みきちゃんは、どんなことを思いながら鶴を折ったの？」

「えーと、早く戦争が終わるように…」
「そうだね、その言葉を書いてごらん」
「うん、わかった」
みきちゃんは、筆に墨をたっぷりつけると、
―**戦争が早く終わりますように**―
と、丁寧に心を込めて書きました。
おばあちゃんは美希ちゃんの書いた紙も千羽鶴に吊るしました。
次の日の朝おばあちゃんは、大きな紙の袋に出来上がった千羽鶴をそっと、大事そうに入れると、村の鎮守様に向かいました。
歩きながらおばあちゃんは、
「このお宮はね、昔、日本が戦争をしていた時、戦争に行った村の男の人たちが、無事に帰って来ますようにって、残された家族がいつも、お参りしていたんだよ」
「ふーん、そうなの」
おばあちゃんとみきちゃんは、そんな話をしながら、歩いて行きました。
お宮に着くとおばあちゃんは、社の前で、丁寧に、おじぎをすると社の中に入って行きました、みきちゃんも、おばあちゃんの後から、中に入って行きました。
おばあちゃんとみきちゃんは、入り口の近くの所に持って来た千羽鶴を飾り、鶴に向かって手をあわせました。みきちゃんが、うす暗い社の中を見回すと、たくさんの千羽鶴が吊るされていました。きれいな折り紙で作られた鶴や、折り紙の色があせてしまった鶴、チラシの紙で作った鶴、そして、一番奥にあった千羽鶴は新聞紙で作られていました。
その新聞紙の千羽鶴に、何か書いた紙がそえられています。文字がうっすらと読めました。その紙には、「正夫さんが無事に帰って来ますように」と書かれています。
「ねえ、ばあちゃん、この千羽鶴、新聞紙で作ってあるよ。正夫さんて、誰なんだろうね」
「えっ、正夫さん」
ばあちゃんは、新聞紙の千羽鶴にそえられた紙をじっと見ていましたが、目からは涙がこぼれています。みきちゃんが、心配そうに、
「ばあちゃん、どうしたの？」
と聞くと、
「この鶴は、ばあちゃんのお母ちゃんが作ったものだと思うよ。正夫さんは、会ったことはないけど、ばあちゃんの父ちゃんの名前だから。父ちゃんは戦争に行って、そのまんま、とうとう帰って来なかった。母ちゃんは、戦死の通知が届いても信じないで、きっと帰って来ると言って、毎日毎日、このお宮にお参りしていたんだよ」
ばあちゃんは、涙を手で拭いながら話してくれました。ばあちゃんの話をじっと聞いていたみきちゃんは、

「昔も、今も、戦争ってほんとに、いけないことだよね」
「そうだね、本当に、みんなが悲しい思いをするからね」
みきちゃんとおばあちゃんは、入り口近くの自分たちで作った千羽鶴をもう一度、じっと眺めてから、家に帰って行きました。
その夜のことでした。みきちゃん達の作った鶴が、次々と社（やしろ）の入り口から空に舞い上がって行きました。一番後から、新聞紙の鶴たちも飛んで行きました。
鶴たちは、山を越え、海を越え戦っている国の上に着くと、空の上から、戦っている兵士一人一人の心に、じっと何か呼び掛けているようです。
その内に、兵士たちみんなの顔が穏やかになり、目から涙がこぼれ、武器を下して、戦いを止めたのでした。
その様子を見て、鶴たちは、ホッとしたように、ゆっくりゆっくりと、羽ばたきながら、社（やしろ）の中に戻って行きました。
「バンザイ、戦争が終わった。鶴さんたちありがとう」
みきちゃんは、大きな声で叫びながら飛び起きました。
夢だったのです。がっかりしてしまったみきちゃんですが、お休みの日にはいつも、おばあちゃんと一緒にお宮に行って、
「早く戦争が終わって、平和になりますように」
と、お参りするのでした。

《春さむし　願いを込めて　折りし鶴》
《ひまわりや　祈るがごとく　俯（うつむ）きて》

サリー物語　わが闘争

原明朗会　長坂幸夫

お父さんは真一さんの思う通り大の動物好きであった。動物好きと言うより生き物の命を大切にする人であった。それは普通の人の感覚を超越したもので、部屋の中に大きなゴキブリが現れても「おお、よく来たね、殺されないように注意するんだよ」と悠々とあのゴキブリを見送るのである。私は歓迎されて長坂家で生活することになったが、スムーズに居心地よい生活が出来たかというと決してそうではなかった。そこにはお父さん意識改革をせねばならないという難題がまっていた。

何日か過ぎたある日お父さんは私を入れるケージを買ってきたのである。このケージは私の最も嫌うものであることをお父さんは知らなかったのである。お父さんは自分たちが家を空ける時に私を檻の中へ入れておけば部屋の中を悪戯されずに済むと考えたのであろうか、私が嫌うのも知らずに。私は檻に入れられた、そのとたん私は、大きな声で喚いた。

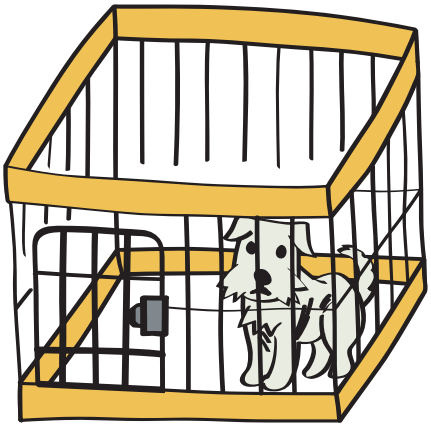
「お父さんやめて、お父さんやめて、早く出して！」

お父さんは私が騒ぐのを見て不思議そうな顔をして見ていたが、私の気持ちは伝わらないようで、部屋を出て行ってしまった。お父さんとしては犬は檻に入れるものと思っているのだ。しばらくして戻って来たお父さんは、泣きわめく私を見てびっくりしたようであったが、動じることなく、檻の中に敷かれたタオルはくちゃくちゃになり餌の容器もひっくり返って餌がそこら中に散らばっているのに私を檻から出そうとしないのである。私も自分がなぜ檻が嫌なのかよく解らない、とにかく嫌なのだ。お父さんは私がいつまでも泣き止もうとしないので仕方なく檻の入り口を開けてくれた。私は喜び勇んで飛び出したのである。しかし、お父さんの考えが改まったのではなかった。

お父さんは何回か入れればその内に慣れて大丈夫と思っているらしい。その後も何回か私を檻に入れるのであるが、私の「檻は嫌だ」と言う気持ちは変わることはなかった。ある日、お父さんとお母さんは揃ってどこかへ出かけることになった。お父さんは

「おとなしく待っているんだよ」と言っていやがる私を檻に入れて出かけてしまった。その日、二人はなかなか帰って来ないで、夜になって帰って来たのである。部屋の明かりをつけるなりお父さん私を見つめた。私はなんとか檻から脱出しようと一日中檻の太い針金の間に顔を突っ込んで檻を破ろうとしたのであった。そのため鼻先は傷つき歯茎からは出血して、痛々しい顔つきになって居たのであろう。針金は曲げられ、泣きわめく私を見たお父さんは

「ごめん、ごめん」と言いながら入り口を開けてくれた。お父さんは「この子を檻に入れるのは可哀想だね、もうよそう」とお母さんに話す声が聞こえた。お父さんはやっと私の気持ちを理解してくれたのである。この日、檻は畳まれて茶の間から消え、わが闘争は終わったのであった。



文芸欄

俳句

コモアシニアクラブ　今友子

紺碧の空に残月秋中ば
朝まだき妣（はは）の手縫しちゃんちゃんこ
強風や巻きて彼方へ花吹き

コモアシニアクラブ　廣井勝美

新たなる四方津の駅や秋澄めり
青空を自由自在に秋の雲
石畳照らす街灯秋の暮れ

コモアシニアクラブ　金子久雄

黄帽子のかたまりが行く通学路
鎌倉を人人人の夏野かな
梅干しやしわの増したる炎天に
ひと房に甘味溢れる黒葡萄
月明かり狐嫁入る銀（しろがね）の穂

コモアシニアクラブ　佐藤纓子

六四供養甘露の慈雨や建長寺
姿良し皿の香魚にかぶりつき
淡雪のかすかに残る蔬菜畑

コモアシニアクラブ　長屋勲

満月にすすきとだんご写真映え
花愛でる朧月夜の茶会かな
ハンモック孫にゆられて空に足
着流しに故郷思う宵祭り
秋蝶や斑点薄く冬支度

コモアシニアクラブ　山本婕子

磯遊ぶ子供のさげしバケツかな
おずおずと磯巾着をつつきみる
鰹船一本釣りとはこの竿ぞ
通草手にふるさと熱く語りけり
蒿塚組みて安堵の一服しておりぬ

沢松親和会　芹川洋子

冬の朝水面にあそぶ親子カモ
紅白に染めた石垣シバザクラ
カサもなく軒下からのにわか雨
窓たたく雨風つよし秋あらし
音もなく舞いちる木葉あきふかし

沢松親和会　小俣キヌ子

箒手に庭の幾歳木の葉髪
春夕焼遠まわりする老二人
ピアノ音や陽のさす庭に寒菫（かんすみれ）
ダイヤ婚話し止まらぬ夜長かな
孫夫婦花活けて待つ爺と婆

沢松親和会　尾形富美子

虚ろなる老いの日々や山若葉
遠蛙しばし聞き入るくりや窓
手ずくりのジャムたっぷり夏惜しむ
亡母恋し友の作りし酒まんじゅう
余生にも夢は持てるか夕涼み

沢松親和会　尾形綾乃

小銭もて花菜日和の万歩計
灯火親しいときがいの一人句座
虹色のしゃぼん玉追う「猫のファンタジー」
（二〇二二年八月三日猫あるきを見て）
迷い込む鳩の小春や地下のカフェ
愛の日の二日おくれのチョコつまむ

新井陽亀会　遠藤一子

年始め電話の孫は敬語かな
蝉時雨ちとせの希求建長寺
呉須絵皿新米にぎり二つ乗せ
重陽の盃の冷酒はなみなみと
喜寿の背はヒートテックに守られて

大目豊明会　高野孝子

あかね雲もみじと競い山染める
しんしんと夜は更けわたり月たかし
彼岸花母の笑顔なつかしき

新一青老会　安藤美津江

一斉にどれが指揮する赤とんぼ
銀杏散る黄金一面敷き詰めて
枯れ草に風が絡まる野面かな
白露やパターラインのくっきりと
落日の野辺に風這う虫の声

新一青老会　土屋澄子

厳寒の湖（うみ）にくっきり逆さ富士
遠吠えに夜更けの寒さ増しにけり
一日をカメラ仲間と梅探（さぐ）る
煤払い腰痛ベルトしかと締め
木洩れ日の中渓流へ散紅葉

新一青老会　中村悦子

てんと虫孫の手の平遊び場に
山ノ道風が落した栗光る
杜（もり）さわぐおどる獅子舞秋の風
雑草の強きに学び今日も生き
まゆ躍る祖母の指先ゆげの中
～祖母が糸取りをしていたのを思い出し書きました～

川柳

沢松親和会　小俣庄三

空蝉の思いの丈があちこちに
ヤモリさん狩りの場にてのランデブー
眠れぬ夜コーロギ君が激励に
キジバトの巣づくりするを見守りて
モグラさんあちらこちらに土の山

秋山高齢者クラブ　杉本節子

庭先で　木実ついばむ　小鳥たち
笛ひびく　今日もファイトだ　クラブ振る
峠道　車と鹿の　ランデブー

短歌

新一青老会　波多野　千江子

百才祝市長さんより戴だく爺腰庇いつゝ椅子より立ちぬ
コロナ禍にお茶一つ無き奥の間に昔話の弾む一と時
秋天の広ごり色付く向い山コロナ騒ぎで廊下より見仰ぐ

小澤ことぶき会　森　川　あきお

春いづこ粉雪（こゆき）に暮れる秋田駅伝えきれない想いを胸に
降りきしる雪の白きよ水の色君と別れし田沢湖の朝
思い出は秘めておくもの寂しいものいつもひとりで忍ぶものかな
（以上を　青春時代の秋田にて）
過ぎし日の華やかなりし青春もかすみとともに消えてゆくいま
埋もれ木の朽ち果てるのは何時（いつ）の日ぞわれ卒寿にてひとしお想う

コモアシニアクラブ　田中　譲治

ほうとうを毎日こねる祖母のこと思い出すなり節くれた指
こんな事まだある國とは情けない夫人の姿に涙あるのみ
廃校の母校の庭に佇みぬ往時を語るは金次郎のみ
年の瀬や暗き街角易者の灯夢や希望も過去のことなり
故郷の夜景に響く除夜の鐘八十路を過ぎるも消えぬ煩悩

詩

本一寿楽会　黒川良人

ハクビシンとイノシシの会話

「イノシシさん！　気をつけてよ。
人間がくくり罠を仕掛けているよ」
「ほんとかい。どこに？」
「この先のけもの道だよ。今し方見たんだ」
「ハクビシンさん。教えてくれてありがとう。
実は、この前、俺の子供が罠に足を挟まれてね、
もがけばもがくほど食い込むんだ。
痛がって悲鳴をあげるが、なす術がないんだ。
そこへ人間が来たので、急いで逃げたさ。
人間どもは、やったぞ！掛かったぞ！と喜んで、
子供を連れて行ったよ。その後どうなったか。
生きているのか、死んでいるのかわからない。
俺は思いっきり、鳴いたさ。
子供を返してくれよ！　頼むよ！と
しまいには涙が涸れてしまったよ。
人間が憎いよ。恨んでいるよ」

「そうだったんだ。辛い目に会ったんだね。
実は、ぼくの仲間も箱罠に掛かったんだ。
好物の果実につられてね。
みんなで昼も夜も必死で助けようとしたが
駄目だった。結局罠の中で死んだよ。
死ぬまで閉じ込めておくなんて、
人間って残酷な生き物と思ったさ」
「まったくだな。俺たちも人間も
神様がくれた同じ命なのにな」

「これからはお互いより気をつけようぜ。
変なものには近づかないことだな。
二度と悲しい思いはしたくないからな」
「そうだね。そうするよ」
「ハクビシンさんの仲間によろしく言ってくれ。
じゃあな。元気でな。注意しろよ！」

●●元気やまなし10か条●●

山梨県では、高齢者が元気でいきいきと活躍する「健康長寿やまなし」の実現に向けた取り組みを推進しています。みんなで介護予防に取り組みましょう。

健康長寿の秘訣について、わかりやすくまとめた「元気やまなし10か条」を紹介するじゃんね！

第一条　げん　**元気に長生きするには（げんきやまなしけんこうちょうじゅ）**

第二条　き　**気心の知れた人との交流で**
社会的ネットワークは健康長寿の大切な条件です。

第三条　や　**役割や興味をもって生き生きと**
家庭や地域での役割や趣味を持つことで生きがいを持ちましょう。

第四条　ま　**学んで脳に刺激を与え**
メリハリのある生活で認知症の予防をしましょう。

第五条　な　**何でも、いつでも、相談し**
かかりつけ医や保健師などの専門家の支援で心と体の健康を保ちましょう。

第六条　し　**食生活、ゆっくりしっかり食べること**
伝統的な食文化を大切にして、食生活を楽しみましょう。

第七条　けん　**煙はごめんと縁を切り**
禁煙や受動喫煙の防止は生活習慣病予防に効果的です。

第八条　こ　**転ばぬ先のリハビリテーション**
転倒予防や安全対策で骨折などの事故を防ぎましょう。

第九条　う　**運動を続けて貯筋を増やし**
体力をつけて外に出ることで、閉じこもりを防止しましょう。

第十条　ちょう　**地域のつながり大切に**
みんなで支え合う、活気ある街づくりは健康長寿の基本です。

じゅ　**自分の体をチェックして健康長寿をめざしましょう**
健診を受けて自分の健康状態を知り、適切な対応を取りましょう。

令和五年度「むろがや」第四十一号

投稿のお願い

（1）ひまわりクラブ事業活動、体験談、詩など一人一作品、四〇〇字原稿用紙七枚以内

（2）短歌、俳句、川柳　いずれか一人5点以内

◎作品と共に写真を提出される場合には1作品2点まで

◎応募作品・写真について校正等の都合で編集委員会に編集させて頂くこともあります。ご了承ください。

原稿締切　令和五年十一月末

提出先　各単位クラブ会長

むろがや　第四十号

令和五年三月三十一日発行

発行者　上野原ひまわりクラブ

上野原市上野原三一六三

むろがや編集委員

杉本茂　秋山高齢者クラブ
市川幸子　沢松親和会
水越茂子　新井陽亀会
今友子　コモアシニアクラブ
長坂幸夫　原明朗会
井本克二　島田桂生会
長田勇一　新一青老会
谷口文朗　新三すこやか会

印刷所　カヤヌマ印刷

老人健康十則

小肉多菜
小塩多酢
小糖多果
小食多齟
小衣多陽
小車多歩
小煩多眠
小怒多笑
小言多行
小欲多施

「むろがや」について

上野原ひまわりクラブ会誌「むろがや」とは、岩波の『古語辞典』に「むろがやの生えている意か。また、地名『都留』にかかる枕詞か、また、地名か。『―の都留の堤の』（万三五四三東歌）とあり、古典文学全集巻四『万葉集』三五四三番に

室草の都留の堤の成りぬがに
　児ろは言へども　いまだ寝なくに

の一首があり、その大意は「都留川の堤の出来あがったように、二人の仲はすでに出来たかの如く、あの子は言うけれど、また共寝をしたわけではない」とあります。私は旧制中学国語の先生から「都留の枕詞」と教えられたことを、今も記憶しております。

＊「むろがや」の意味についての問い合わせを多数いただきましたので、「むろがや」第十六号に掲載されておりました故降矢敬雄氏の原稿を再掲させていただきました。

ささえ　ささえられ　うえのはらで　いきる

上野原市社会福祉協議会　基本理念